

第 79 回 理 事 会 議 事 録

1. 日 時 令和 4 年 9 月 27 日 (火) 13 時 00 分～14 時 55 分

2. 場 所 アルカディア市ヶ谷
WEB 会議 (ZOOM システム)

3. 出席者

会 長	井上 圭三	
副 会 長	楠 文代	中村 明弘
常務理事	田中 芳夫	越前 宏俊
	浜岡 純治	加留部 善晴
理 事	杉林 堅次	亀井 美和子
	元木 和幸	奥 直人
	引田 弘道	神野 透人
	赤路 健一	岩城 正宏
	中村 恵	北川 裕之
監 事	富田 基郎	市川 厚
参 与	乾 賢一	本間 浩

出席理事数	17 名
会場出席	4 名
WEB 出席	13 名

4. 議事の経過の要領及びその結果

定款の規定に基づき井上会長が議長に就任し、理事現在数 17 名に対し、本日の出席理事は 17 名となり、定款で定める定足数を満たしており、本理事会が有効に成立していることが宣言された。また、議事録署名人として出席理事から、亀井理事を指名し、事務報告の後、議案の審議に入った。

(1) 前回議事録の確認について

前回議事録(第 78 回理事会:令和 4 年 7 月 5 日開催)について、全会一致でこれを承認した。

(2) 各種委員会委員の選任について

井上会長から、各種委員会委員の委嘱については、前回開催の第 78 回理事会において承認されたが、その中で「広報誌編集委員会」及び

「教育研究問題検討委員会」については、今後、多面的に議論を行う必要があることから、資料3のとおり、新たな委員を加えた委員会構成としてこれを承認した。

・ 広報誌編集委員会

委員長 井上圭三（帝京大学 理事・副学長）
委員 中村明弘（昭和大学 薬学部長）
〃 田中芳夫（東邦大学 副学長・薬学部長）
〃 亀井美和子（帝京平成大学 薬学部長）
〃 岸本成史（昭和薬科大学 教授）
〃 大津史子（名城大学 教授）
〃 武田香陽子（北海道科学大学 准教授）
(新たに追加する委員)
有田悦子（北里大学 教授）
角山香織（大阪医科薬科大学 准教授）

・ 教育研究問題検討委員会

委員長 井上圭三（帝京大学 理事・副学長）
委員 田中芳夫（東邦大学 副学長・薬学部長）
〃 亀井美和子（帝京平成大学 薬学部長）
〃 荒田洋一郎（帝京大学 教授）
〃 高橋秀依（東京理科大学 教授）
〃 大津史子（名城大学 教授）
〃 武田香陽子（北海道科学大学 准教授）
(新たに追加する委員)
屋山勝俊（神戸学院大学 薬学部長）
岸本成史（昭和薬科大学 教授）
永井純也（大阪医科薬科大学 教授）
川崎直人（近畿大学 教授）
飯原なおみ（徳島文理大学香川薬学部 教授）
桂林秀太郎（福岡大学 教授）
肥田典子（昭和大学 准教授）
角山香織（大阪医科薬科大学 准教授）

(3) 広報誌「6年制薬学ガイド2024」の刊行について

井上会長（広報誌編集委員会委員長）から、今回刊行する「6年制薬学ガイド2024」では、令和6年度入学生から適用する「薬学教育モ

デル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）の内容を織り込みたいと考えている。本改訂版は現在、文部科学省を中心に検討中であり、本年冬頃に決定となることから、これまでのように来年3月末までに刊行することが難しく、発行時期は来年度にずれ込むことがあること等の報告があった。

（4）薬学教育協議会について

本間参与（薬学教育協議会代表理事）から、資料4に基づき、薬学教育協議会の役員（第11期）が決定したことの報告があった。

（5）薬学共用試験について

中村副会長（薬学共用試験センター試験統括委員会委員長）から、資料5に基づき、以下のとおり報告があった。

- ・2022年度薬学共用試験 CBT 体験受験の結果について
- ・2022年度薬学共用試験 OSCE の課題数について

2022年度 OSCE 本試験における課題数については、「5領域6課題」で実施する予定であったが、COVID-19の急拡大に伴い、薬学共用試験センターから改めて課題数を見直すことについて、全国薬科大学長・薬学部長会議へ提案することとなり、奥直人会長及び中村明弘・藤尾慈両副会長の了承を得た上で、全国薬科大学長・薬学部長会議として、了承した旨の回答及び報告があった。

なお、薬学共用試験センターから各大学に通知した、課題数の見直しを含む内容は、以下のとおりである。

- ① OSCE 本試験は、5領域（52課題）から、異なる領域の3課題とする。
- ② 4-1「手洗いと手袋の着脱」「手指の消毒と手袋・ガウンの着脱」、課題5-5「医療従事者への情報提供」は課題対象とする。
- ③ 受験生には5領域6課題が5領域3課題になることのみ通知し、本試験当日の各試験実施場所（ステーション）に移動するまで、実施課題がわからないようにする。

※OSCE 実施の際には、薬学共用試験センターが提示した感染対策マニュアルを遵守する。

※各大学においては、改訂モデル・コアカリキュラムに準拠した事前学習を確実に実施し、全ての領域について知識・技能・態度を身につけたうえで、実習に送り出すこと。

(6) 薬剤師国家試験問題検討委員会について

井上会長から、本年度開催の厚生労働省「医道審議会薬剤師国家試験事後評価部会」は、昨年同様、新型コロナウイルス感染防止の観点から、メールによる持ち回り開催（書面開催）で実施することとなり、本協会から報告・提出した「第107回薬剤師国家試験問題の検討結果」については、参考資料として委員全員に送付し、その後9月6日に事後評価部会の持ち回り開催が終了した旨、厚生労働省から連絡があったことの説明があり、これを了承した。

(7) 令和5年度主要会議開催予定について

小池事務局長から、資料6に基づき令和5年度理事会・通常総会等の開催予定について説明があり、これを了承した。

関連して、本年11月以降に開催される理事会・通常総会等を、下記のとおり実施することが了承された。

◎ 11月29日（火）

- ・第81回理事会 11:00～ 対面及びZOOM会議により実施。
ホスト会場（アルカディア市ヶ谷）に参加も可。
- ・第2回通常総会 13:00～ 同上
- ・教育賞授与式 16:45～ 同上
- ・情報交換会 コロナ禍の状況等を踏まえ実施しない。

(8) その他

(1) 薬学系人材養成の在り方に関する検討会（第3回）について

井上会長（同検討会副座長）から、8月16日に開催された標記検討会について、資料7に基づき以下の報告があった。

- ・薬学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）（素案）の検討状況及びカリキュラム改訂の検討体制について
- ・6年制課程における薬学部教育の質保証について

また、乾 参与（同検討会薬学部教育の質保証専門小委員会主査）から、「6年制課程における薬学部教育の質保証に関するとりまとめ」（8月23日公表）について報告があり、ここでは薬学教育全般の質保証という観点から、入学者選抜の在り方、入学定員に関する取組、教学マネジメントの確立、情報の公表、薬学教育評価への対応等、今後の改善・充実方策が提言され、特に入学定員の扱いについて、

6年制課程の薬学に係る学部・学科の新設及び収容定員増は、抑制方針をとることとなった等の報告があった。

(2) 令和4年度文部科学省委託費に関する検討状況について

井上会長から、令和4年度より文部科学省の委託事業を薬学教育協議会が受託したことや、薬学教育モデル・コア・カリキュラム改訂の検討体制、改訂に向けたスケジュール、改訂の概要等について報告があった。

また、本間参与（薬学教育協議会代表理事）から、薬学教育協議会の「薬学教育調査・研究・評価委員会」等における、これまでの検討状況について説明があった。

(3) 「薬学実務実習に関するガイドライン」に関するヒアリングについて

中村副会長（実務実習検討委員会委員長）から、資料8に基づき以下の報告があった。

- ① 文部科学省の「薬学実務実習に関する連絡会議」では、薬学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に伴う「薬学実務実習に関するガイドライン」の改訂を予定しており、その役割を担う薬学教育協議会を通して、薬学5団体（日本私立薬科大学協会、国公立大学薬学部長（科長）会議、薬学教育協議会、日本薬剤師会、日本病院薬剤師会）に対し、ガイドラインで示された各項目について、ヒアリングを行うための事前回答が求められたものである。
- ② 本協会として回答するに当たり、「実務実習検討委員会」を開催した結果、各項目共通として「令和4年度改訂版の改訂内容に基づいた内容を反映する必要がある」とし、その他意見として、「改訂に際し、現在のガイドラインの内容について評価・検証が必要である。」また、「災害や感染症拡大等の不測の事態が生じたときの対応について基本方針に追加してはどうか」等の意見集約を行った。

なお、関連して、10月11日に開催されるガイドラインの本件に関するヒアリングには、亀井理事が出席することが併せて報告された。

- (4) 令和4年度文部科学省薬学教育指導者のためのワークショップについて

中村副会長（同ワークショップチーフタスクフォース）から、資料9に基づき、8月26日（金）にオンラインで開催された「令和4年度文部科学省主催の薬学教育指導者のためのワークショップ」

（テーマ：「薬学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）」に基づくカリキュラムの実施に向けて）について報告があった。

また、文部科学省において、現在、報告書を取りまとめ中であるとの説明があった。

- (5) 「第7回日本薬学教育学会大会」について

中村副会長（日本薬学教育学会との連携推進委員会委員長）から、8月20日（土）、21日（日）の両日、北里大学薬学部においてオンラインで開催された「第7回日本薬学教育学会大会—薬学人のアイデンティティを探る～自己実現を志向する薬学教育～

（大会長：岡田信彦北里大学薬学部教授）」について報告があった。

- (6) 新型コロナウイルス感染症の対応を踏まえたワクチン接種・検体採取の担い手を確保するための対応の在り方等に関する検討会について（第1回：8月23日開催・第2回：8月31日開催）

井上会長から、標記検討会において取りまとめられた報告書について、資料10に基づき以下のとおり報告があった。

「感染症発生時に医師、看護師以外の医療職種がワクチン接種をすることについては、医療安全の観点から接種に関する基本的教育を受けており、業務を行う上での技術的基盤を持っていることが重要とし、該当する職種として歯科医師、臨床検査技師、救急救命士、診療放射線技師、臨床工学技士の5職種を担い手とするのが適当とした。なお、薬剤師は対象に含まれなかったが、今後の課題として、新型コロナウイルスより感染力が強い感染症が発生し、ワクチン接種ができない状況も想定されるため、対象とならなかった職種を含めて、これらの状況が発生した場合の対応を検討していくことが重要であるとされた。」

5. その他

令和5年度文部科学省及び厚生労働省の概算要求の概要について、関係資料の配布があった。

令和4年9月30日付で、理事であった岩城正宏近畿大学薬学部長が退任されることから、理事退任の挨拶があった。

議長は、以上をもってすべての議案の審議を終了した旨発言し、14時55分閉会を宣言した。

以上の議決を明確にするため、本議事録を作成し、議長及び出席理事(指名された議事録署名人)、監事がこれに署名捺印する。

令和4年10月18日

一般社団法人 日本私立薬科大学協会

議長 井上圭三
(押印済)

出席理事 亀井美和子
(議事録署名人) (押印済)

出席監事 富田基郎
(押印済)

出席監事 市川厚
(押印済)